

第3回 いきいき運営委員会 議事内容

日時：2026年6月27日 場所：海神公民館

参加者（敬称略）：長澤・伊藤・井上克子・井上忠・佐藤・瀬戸山・坂本・黒田・井澤・斉藤

I. 組織運営体制の変革と行政との関係

1. 運営体制の移行と方針

- 「運営委員会」体制への移行
 - 従来の「部長会」を廃止。より多様な議論を可能にするため、運営委員会体制へと移行した。
- ルームアドバイザー（RA）の重要性
 - 新入生の入会促進には、在校生と接点を持つRAの力が不可欠である。
 - 市民大学側からも、RAに対して強い信頼と推薦依頼が寄せられている。

2. 会員資格の拡大と「開かれた同窓会」への転換

- 門戸開放の検討
 - 従来の学部以外（まちづくり学部等）の受け入れについて検討中（結論は未）。
 - 同窓会側が具体的な事業計画などの「味付け（企画・提案）」をして提示すべき段階にある。
- まちづくり学部への具体的なアプローチ
 - これまで配布していなかった会報を同学部にも配布し始めており、早期の規約改正を目指す。

3. 行政との関係と管轄変更リスク

- 管轄移行のリスク
 - 活動範囲や会員資格を一般市民に拡大して「開かれた組織」にすることで、担当管轄が現在の「高齢者福祉課」から「社会教育課」へ移る可能性がある。
 - リスクの要因：
 - 長年の付き合いがある「高齢者福祉課」に対し、新しい「社会教育課」の対応は未知数。
 - 社会教育課の助成金上限は低い。現在の福祉枠である助成枠（上限90万円）が失われるリスク。
- 行政との懇談会に向けた準備
 - 日時・場所：7月16日、宮本公民館にて開催予定。
 - 対応：市に対し、要望（陶芸復活、スポーツ学科再設・・）を文章化して提示する準備を進める。

II. 財務改革と2025年度決算の実態・将来予測

1. 2025年度（令和7年度）決算の実態と経費の可視化

- 決算の背景（助成金維持のための実績作り）
 - 助成金のルール：助成金を全額受給するには、180万円以上の事業費実績を作る必要があった。
 - 予算の使い切り：使う予定の消耗品や備品を前倒し購入。最終的に1,800,400円の実績を積み上げた。
- 具体的な支出・備品購入の事例
 - 作品展：展示用のシートをすべて買い替え、予算を約6万2千円超過。
 - 健康スポーツ部：モルック（2セット）、ボッチャのボール（補充）、ペタンクの道具などを購入。
 - 広報部：会報の手作り化により予算を削減できたが、インクや用紙の購入を行った。

2. 経費削減の議論（手当の是非）

- 理事会出席手当（交通費）の廃止案
 - 廃止案：理事に支払われている年間1,000円程度の交通費（諸手当）を廃止すべきという意見。
 - 慎重論：自己負担で活動している理事も多く、士気の低下、功勞に対する配慮を欠くのではないか。

3. 将来の財政シミュレーション（2027年度～2029年度）

- 会員数減少の予測
 - 現在の600名台から、2029年には500名程度まで落ち込むと予測される。
- 収支の逼迫と選択肢
 - 現行会費を維持する場合、事業費は180万円から100万円程度まで大幅に圧縮する必要がある。
 - 今後の3つの戦略的選択肢：
 1. 「事業費の縮小（100万円規模での運営）」
 2. 「会費の値上げ（1,500円～1,800円への改定）」
 3. 「事業収入の創出」 *期限：9月までにこの枠組みを決定する。

III. 競技大会における助成金・参加費の不均衡と制度改革

1. 現状の助成金使用実態と課題

- 賞品代への偏重
 - 多くの大会で、助成金のほとんどが「賞品代」に充てられている。
 - グランドゴルフ：参加費計7,800円に対し、助成金3万円を投入し、全額を賞品代に充当。
 - パークゴルフ：参加者47名に対し助成金4万円がそのまま賞品代（参加賞含む）となっている。
- 運営ルールの不透明さと不均衡
 - 賞品代が人数に関わらず「固定の助成金」で賄われているため、参加人数による不均衡が生じている。
 - キャンセル料や、事前購入品の精算ルールが未整備、個人が一時的に立て替えているケースがある。

2. 助成金制度の抜本的見直し案

- 「受益者負担」と「50%ルール」の導入
 - 原則案：「助成金は運営費総額の50%（参加費と同額）を上限とする」という一律ルールを提案。
 - 目的：助成金を使い切るのではなく、参加者が自ら楽しむための費用を自ら負担する形へ移行する。
- 賞品のあり方の意識改革
 - 「賞品がないと参加しない」という意識を脱却し、「榮譽」を重視する運営へのシフトを検討する。
- 助成対象の精査（インフラ支援の維持）
 - 消耗品や道具の補充など、活動の維持に不可欠な費用については、引き続き同窓会が支援する方針。

3. 会計処理の変更検討

- 特別会計の一般会計への統合案
 - 現在、各競技大会の収支は「特別会計」として扱われている。
 - これを一般会計に組み込むことで、全体の事業規模を実質的に膨らませ、市の助成金枠（90万円）を安定的に確保する戦略を検討する。（会計処理の妥当性を確認する必要がある）

IV. 現場の課題と新規事業・会員名簿対策

1. RA連絡会報告（現場の「三重苦」）

- ① 時間の不足
 - カリキュラム上のホームルームは年間2時間しかなく、必要な連絡は休み時間を削って行なっている。
- ② リピーター問題
 - 過去に受講経験のある学生は、仕組みを理解していると思い込み、RAのアドバイスを拒む傾向がある。
- ③ プライバシー意識への対応
 - 集合写真のマスク着用、特定の写真を黒塗り、再度修正を要求など、個別対応に苦慮している。
- 解決への仕掛け・対策
 - オリテで趣味を把握しグループディスカッションを通じ早めに同好会やサークルの情報を周知する。

2. キラーコンテンツの開発と新規事業

- これまでの実績
 - スマホ講習会（4年間で200回開催）、JAXA見学、歌声同好会など。
- 新企画の検討
 - 在校生が「面白そう」と直感的に感じる企画を機動的に立ち上げる。
 - 例：eスポーツ、AI活用講座、地域食べ歩きツアーなど。
- 有料講座の実施
 - 市のニーズ（健康増進・認知症予防等）に合致した、専門性の高い有料講座の実施を検討する。

3. デジタル会員名簿の活用と未納者対策

- 名簿のデジタル化
 - ほぼすべての同好会名簿を統合し、検索可能なシステムを構築完了。
- 会費未納の可視化と対策
 - 同好会活動に参加しているメンバーのうち、約60名が同窓会費を未納であることが判明。
 - 対応方針：
 - 活動から排除するのではなく、大会や作品展の受付時に名簿チェックを行う。
 - その場で支払いを促すなどの丁寧な「声掛け」を徹底する。

V. 実務プロセス・会議環境の改善と今後のスケジュール

1. 実務および会議運営の改善

- 修了生ガイドブックの編集方針
 - 会長作成の原稿案に基づき制作チームを編成。誰が責任を持って編集し、誰が実務を行うかという責任体制を明確にする。提示された原稿案をベースに計画通りに進行する。
- Googleカレンダーの活用
 - 同窓会行事、同好会活動、大会予定などを集約し、管理・共有する仕組みを整える。
- 会議環境の改善
 - 会場が広くマイクが反響するため、より話しやすい環境作り（音響等）を検討する。
- 報告の簡素化
 - 実務に多くの時間を割くため、定例の報告事項は必要最小限に留める方針とする。

2. 主要な今後のスケジュール

日程	内容	場所 / 備考
7月15日	学級長連絡会	きららホール
7月16日	行政（市）との懇談会	宮本公民館（要望の文章化が必要）
9月	理事会 & 同好会実行委員会	同日開催（会報手渡しによるコスト削減） ※2027～29年の財政枠組み決定の期限